

### 6月定例市議会

# 公害課の設置きまる

☆☆☆☆ 6月定例会は、6月12日招集され、昭和46年度一般会計補正予算案などの議案  
 ☆☆☆☆ 20件、報告4件、認定1件を審議した結果、いずれも原案どおり可決し、6月18日、  
 ☆☆☆☆ 7日間にわたる日程を終えました。市議会の最終日には、任期満了になった助役および監  
 ☆☆☆☆ 査委員選出の案件が提出され、助役には、竹内福哉氏（再任）と収入役であった山城雄三  
 ☆☆☆☆ 郎氏の2人の助役が選任されました。また、監査委員には、田畑文治氏が選任されました  
 ☆☆☆☆ 以下、こんどの市議会できまった主なものは、つぎのとおりです。――

☆☆☆☆  
 ☆☆☆☆  
 ☆☆☆☆  
 ☆☆☆☆  
 ☆☆☆☆  
 ☆☆☆☆



竹内助役



山城助役

### 監査委員に 田畑文治氏（長木川南6番地）

46年2月2日で任期満了になった緑川大二郎氏と浅利兵治氏の後任として選出されたものです。

### ◇一般会計に3億1,823万5,000円を追加

一般会計の歳入、歳出の総額に3億1,823万5,000円がそれぞれ追加されたため一般会計の総額は29億059万6,000円になりました。

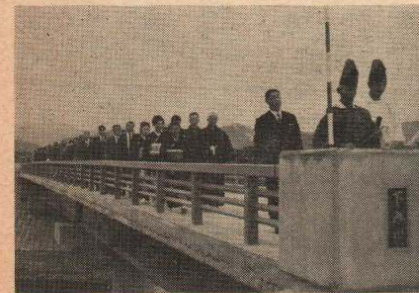
- 追加分のうち、歳入の主なものを拾ってみると、
- ◎45年度からの繰越金が1億1,920万円
  - ◎米代川北線新設事業、曲田橋かけ替え事業、公園新設事業等への国庫支出金が9,606万円
  - ◎道路舗装整備などの市債が7,220万円
  - ◎集団転換事業促進などの県支出金が2,411万円
- 歳出のうち、今度の補正予算で明らかにされた事業としては、
- ◎車で来庁する市民が多く、庁舎前の駐車場がいつも混雑しているため、市民の皆さんにはご迷惑をかけてきたところです。このかみ河をはかるため、テニスコート附近に駐車場をつくることにした。
  - ◎7月オープン市民プール（50m）のそばに、子ども用のプールをつくることにした。
  - ◎市道11線の舗装を実現することにして年度当初、粕田線、立花線、釈迦内——松木線の舗装を予算計上してあるが、今度の補正では、根下戸線などの舗装および道路の改良に7,850万円を計上した。

### 高館橋が完成

昨年9月から着工していた高館橋が完成しました。高館橋は、松木部落と釈迦内を結ぶ下内川にかけ替えられたもので、かけ替えにあたっては、高館山で黒鉱の発掘を進めている三菱金属鉱業KKの多大なご協力をいただきました。

新しくできたこの橋は、延長54m、車道幅4.5m、舗道1.5mの永久橋で、市が総工費2,000万円を投じて完成させたものです。

橋の完成式が行なわれた6月9日には、市から石川市長らが参列し、地元あげて参列した松木の方々はじめ、三菱金属、工事関係者らとともにこの完成を祝いました。松木の学童の通学、黒鉱の運搬等のかけ橋となる高館橋のはたす役割は大きいものがあり、地元の喜びようも大変なもので、この日は、松木の郷土芸能、獅子舞などの披露うなどもあり参列者のかっさいをあげました。



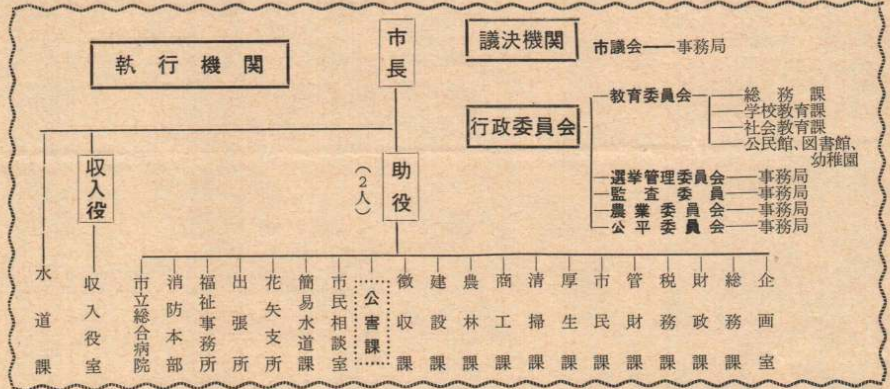
- ◎待望の曲田橋のかけ替えと黒沢橋、赤沢6号橋のかけ替えに着手することにした。
- ◎運動公園を新設する計画のもとに、その土地を購入することにした。
- ◎墓地公園の園路広場の工事を行なうことにした。
- ◎下水道の水路布を購入することにした。
- ◎釈迦内小学校の建設に514万円を追加した。
- ◎除雪ドーザーを購入することにした。
- ◎米代川北線の新設事業は8,480万円を追加した。

### ◇公害課の新設

（場所は別棟1階—福祉事務所の隣り）

昨年7月、企画室内に公害係が設けられ、河川汚濁の調査や家畜公害の防止などを積極的に進めてきたところです。最近の公害問題の重要性を考え、この公害係を7月1日から公害課として新設し、公鉱害の調査や対策に力をそそぐとともに、いままでは、市民相談室の仕事であった交通安全の仕事も、この公害課で行なうことになりました。

今度の公害課の新設によって、市の機構はつぎのようになります。



## 大館 農協の合併成る

45年12月25日、合併協議会を設立し、以来、数度の協議会を開くなど、大館と花矢農協の合併を両方で推進してきたところ、今年の4月8日には、市長立ち合いのうちに合併予備契約書に両組合長が調印、そして、6月10日には合併登記完了というように、早やばやと両組合の合併が実現した。

合併登記が完了した6月10日をもって、新大館農協が誕生したことになったわけですが、今度の合併方法は花矢農協は一切の財産を大館農協に引きつぎ、この日をもって花矢農協は解散する、という方法をとっているがいずれにせよ、この合併によって、大館農協は、組合員数4,967人、総代数520人、理事30人を有する県内では秋田市農協につぐマンモス農協になったわけです。

大館市農協は、昭和39年3月31日、大館、釈迦内長木、雪沢、上川沿、下川沿、真中、二井田、十二所の9つの農協（いずれも昭和23年8月の農業会の解散によって設立）によって発足したもので、今度の花矢農協との合併はこれにつぐ2度目の合併であります。

農業をめぐる経済情勢がきびしくなっている今日、農協のはたす役割は非常に大きなものがあるが、今度の合併によって、大館の農家が農協から受ける恩恵も均等化され、また市の行政と一体化のもとに農協活動が推進されることにもなり、農家の経済的、社会的地位の向上をはかる意味あいからも必要でかつ、適宜な合併であるといえると思います。

一方、合併後の組合の運営方針と事業経営方針として第1に事務分掌を明確にしながら組合員との連携を深めることを上げ、そのためには、企画会議、部落座談会の



開催と、営農と生活指導の強化を図ることになっている。

第2に、市の農林行政等との連携、農協青年部、婦人部活動の推進などによって、営農計画の樹立や農協事業推進をはかるなど適切な組合運営を図ることになっている。

また、事業方針では農家の生活安定と向上をめざすため、うまい米作りの推進などの指導事業をはじめ、貯金などの信用事業、共済事業、購買事業、販売事業、倉庫事業、種子センターなどの特殊事業を強化し、農家の所得増大をはかる方針をうたっている。

とにかく、3年ごの資産を48億1,816万800円（合併時点では34億1,548万円）をメドに推進される諸事業には、農協自体の発展のため、強いては、農家や市民経済の向上のためにも一致協力し、マンモス農協その名にふさわしい充実した農協の確立が大いに期待されているところです。